



自己紹介



立食パーティー



目合わせ



羊の毛刈り



基調トーク



羊肉バーベキュー



スカーティング(裾物を取る作業)

ジャパン ウール プロジェクト Japan Wool Project (JWP) 2023 一人ひとり違う やり方 考え方 でも 目指すは国産の羊毛を生かすこと

JWPは2019年に伊藤核太郎さん(国島株式会社/製織)の「国産羊毛を生かした毛織物をつくりたい」という呼びかけのもとはじまりました。そして2022年には27牧場から5.7トンの羊毛が集まりました。そして5年目をむかえる今年4月に開催された交流会「キックオフミーティング」では北海道45人、盛岡23人の、羊飼い、紡織関係者、大学の研究者、手工芸作家、加工業者など、羊をめぐる関係者が集まり大いに盛り上がりました。当日は羊の毛刈りとスカーティングの実演、毛刈りのあと、毛質の目合わせと取ってほしい裾物など。その後、自己紹介と基調トーク、続いて立食パーティーと…、もうおしゃべりが止まりません。新規に牧場をはじめた有光志穂さんの、羊飼いをはじめた理由「羊が好き」という言葉に共感しました。

日本の“羊”は明治以来、国策として政治と経済が主導で、その基盤が作られ、戦後100万頭を数えた時代もありました。しかし戦争や不況、大地震で何度も挫折を味わっています。現在日本の羊は、民間の羊のネットワークの中で助け合って、およそ2万頭前後で推移しています。

後日、石田美希さんから「羊飼いは、他の畜産業と違って所属する団体がないので、本当に牧場ごとにやり方が大きく異なります。生産物への価値感(もちろん羊肉が主な収入ですが、羊毛や内臓、皮などに価値を見出すかどうかなど)も全く違い、羊毛ひとつとっても、牧場間の扱いに大きな差があると思います。JWPさんへ送るフリースも、品質の統一は非常に難しいと思いますが、できる限りみんなで情報共有して、少しずつ幅を狭くできればと思います。」というメールをいただき、胸を熱くしました。

さて今年は10/28～29に岩田真吾さんたち実行委員会が主催する「ひつじサミット尾州」にて、洗い・染色・織り・仕上げの工場を見学する弾丸ツアーを計画中です。牧場⇄工場。双方の現場を知ることが、より良い物創りにつながると思います。(本 outcomes)

【JWP2023キックオフミーティング】

()内は当日の提供メニュー

4/24 会場/北海道 ヨークシャーファーム
竹田美智子(マトンのプレスハム)

- 基調トーク
茶路めん羊牧場 武藤浩史(鶏肉のシチュー、ハギス)
石田めん羊牧場 石田直久 美希(羊のチーズ)
日本縮羊研究会会長 河野博英/Sheep consulting
下田縮羊牧場 下田都由
TOMAMU SHEEP FARM 有光良次 志穂
泉州羊毛工業株式会社取締役社長 今井康隆/紡績
三星毛糸株式会社取締役社長 岩田真吾/製織

4/27 会場/岩手県 小岩井農場

- 基調トーク
小岩井農場 羊担当 山田祐太郎(羊肉部位別の焼肉)
株式会社クラシカウソシ 水野ひろ子/県産羊毛活用事務局
森保染色株式会社代表取締役社長 早川典雄/洗毛、染色
国島株式会社 関戸晃/製織
山本佳典/『羊と日本人』著者

写真提供:今井康隆、早川典雄、村井七帆、森遥香

Japan Wool Project 協議会 (JWP)

会長 水森吉紀 事務局長 一井伸一
〒541-0051
大阪府大阪市中央区備後町2-5-8
綿業会館4階 日本羊毛産業協会内
jwoolproject@gmail.com



国産羊毛のジャケット